



夏休み教育ニュース

校 長 増 井 貴

今年の夏も異常な暑さが続きました。「熱中症警戒アラート」が連日のように出され、ダム貯水率低下のニュースが出たかと思うと、局所的に線状降水帯が発生して、年間降水量を数日で超えてしまった(冠水・土砂崩れ)地域もありました。

そんな中で、教育関連の興味深いニュースがありました。いくつか紹介します。

■次期学習指導要領から評価の「主体性」を外す(7月4日)

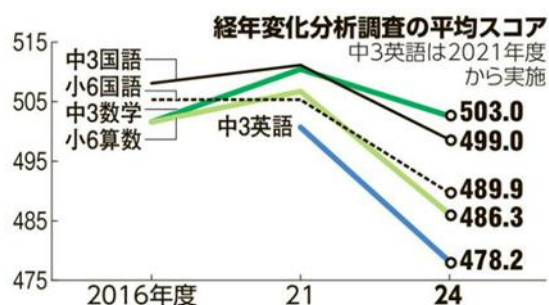
2030年度以降の実施が見込まれる「次期学習指導要領」について、文部科学省は一部先行見直しを図る。その一つが評価の観点(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」)の内の「主体的に・・・」を成績に反映させず個人内評価にとどめる方向で調整されたこと。これで、「主体性」という数値化しにくく評価者の主観に左右され易いという項目での評価が減り、より公平で客観性が保たれることになる。

以前の学習指導要領では、「関心・意欲・態度」という観点をととても大切に考えて児童を評価していました。現行の「主体的に学習に取り組む態度」という観点を外すとなると、それに代わるものが出てくるのか、「知識・技能」「思考・判断・表現」が分割されるのか、いずれにしても、通知表の表現が変更になることが予想されます。

■小6と中3の学力スコア低下(7月31日)

子どもの学力の変化をみる国の「経年変化分析調査」(2024年度)の結果が公表され、前回(2021年度)より全教科で成績が下がった。これは、毎年行われる「全国学力・学習状況調査」とは異なり、抽出校に毎年ほぼ同じ問題を解いてもらう(小6:国語・算数、中3:国語・数学・英語)。

文科省によると下がった要因は「明確に示せない」としながらも、中学英語については「コロナ禍」が影響しているのでは・・・という可能性を指摘している。また、この調査では保護者への質問調査も行われ、①子どもがゲームやスマートフォンを使う時間が増え、学校外の学習時間が減ったこと、②子どもが良い成績を取ることにこだわらない保護者が増えたこと、などが分かった。



このニュースに対して、専門家は、「英語に関して対面での授業が減り、話す・聞くような学習活動が極端に少なかったことも関係している」と話しています。確かに、あの時期は、3密を避け、余計なおしゃべりもはばかられました。また、学校閉鎖や出席停止などで授業がうまく進められませんでした。学力低下が起きたとしても自然のことなような気がします。この調査では、保護者の意識の変化もみられ、成績が伸びなくとも気にしないという考えも一定数あるようです。

文部科学省は、教員の働き方改革に関する指針の改定（案）を中央教育審議会特別部会に示した。

このうち、学校以外が担うべき業務の中に、「保護者からの過剰な苦情や不当な要求等の学校では対応が困難な事案への対応」が追加された。

月/ 日	予 定 等	月/ 日	予 定 等
8/27	学習スタート会	9/11	道徳学習参観、保護者向け原子力防災講座、学年懇談会②
9/ 1	避難訓練②、委員会		
9/ 2	ファミリー遊び	9/16	陸上大会の激励会
9/ 3	4年（総合）お魚救助隊	9/17	全校5限下校
9/ 4	English Day	9/19	3年 親子活動（夢の森公園 午前）
9/ 5	5年 理科示範授業		原子力防災訓練（引き渡し訓練）
9/ 8	4年 校外学習（谷根・赤岩ダム）	9/26	6年 親善陸上大会
9/ 9	北星朝会（図書委 読書郵便）	9/29	クラブ①
	移動図書館（昼）	9/30	北星朝会
9/10	中越教育事務所管理主事訪問		